

## ■ 自然体で中絶を語るために ■

## 話してみませんか? 「聖書は胎児をどう描いているか」を

小さいのちを守る会 代表 水谷 潔

クリスチャン読者の皆さんは、胎児のいのちや中絶の是非について尋ねられる時があるかもしれません。その時、どう返答したらよいでしょう? 「自分は、クリスチャンだから胎児のいのちが大切、中絶は反対」。絶好の証しの機会に、結論だけを伝えるのでは少しもったいない気がします。「聖書は胎児をどう描いているか?」をお伝えできたら、いのちの大切さと神様の愛を同時に証しできるのではないかと思います。

そこで今回は、「聖書は胎児をどう描いているか?」を周囲の方々に分かりやすくお伝えするお手伝いができればと願って、三つの面から記してみます。

## 神から人へのまなざし

まず、神様から胎児へのまなざしを表す聖書の言葉を見ていきましょう。その代表は、詩篇139篇の16節前半です。

「あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。」

この聖書の言葉は、神様が私たち人間を、胎児の時期から既に愛のまなざしをもって見てくださっていることを教えます。さらに神様は芽生えたばかりの胎児を一人の人格として記録して下さっていると受け止めることができます。

それだけではありません。神様は、胎児を人格と認めるばかりか、そのいのちに積極的な意味と目的と使命とを与えてくださるのです。エレミヤは神様から「腹から出る前から…預言者と定めていた」(エレミヤ1:5)と語りかけを受けています。同様にサムソンは胎内で既に聖別されており(士師記13:5)、イザヤは胎内で神様から召しを受けており(イザヤ49:1)、パウロも「生まれたときから…召して下さった」(ガラテヤ1:15)と、エレミヤ同様の召命観を持っていたようです。

神様は私たちが胎児の時から既に、その人生に意味と目的と使命とを与えておられます。私たちは神様に会って、自らのいのちの意味、人生の目的、神様からの使命を知ります。そして、人々との出会いの中で、それらを果たしていくのです。それが人間本来の人生でしょう。だとしたら、人工妊娠中絶という手段によって、そのいのちの意味、人生の目的、神様からの使命を胎児から奪ってしまうことは、正しいと言えるでしょうか?

## 人から神への応答

また、聖書には胎児が神様に応答するという記事もあります。それはバプテスマのヨハネについての記事です。彼は胎内で既に聖霊に満たされていました(ルカ1:15)。そして、イ

エス様を身ごもったマリヤの挨拶の声に応答して、胎内で踊った(ルカ1:41)と聖書は記しています。それは胎児であるヨハネが救い主を認知して、全身全霊で応答し、母エリザベツに救い主の誕生を知らせたことを意味するでしょう。

ダビデも詩篇22篇10節で、「母の胎内にいた時から、あなたは私の神です」と信仰告白をしています。それは、あたかも胎児の時点に戻ったダビデが、その時に受けた神様の愛の語りかけに応答しているかのようです。

預言者イザヤやエレミヤ、そしてパウロたちは、様々な試練や葛藤を経ながらも、神様からの召しを果たしていきました。彼らを支えていた一つは「胎児の時のからの召し」という強い召命観であったのかもしれませんが。士師サムソンはその自覚を持ちながら、使命を果たせなかったことを最後に悔い改めたようです。

こうした聖書の記述を見ると、胎児は神様の恵みや呼びかけに応答し得る人格的な存在と言えるのではないのでしょうか? 神様への人格的応答、それこそ「人間であること」の証しに他ならないでしょう。

## イエス様ご自身の生涯から

最後にイエス様ご自身の生涯からも学びましょう。神様が人となられた時、何歳であったでしょう? ゼロ歳でしょうか? いいえ、マイナス何ヶ月かであったはずです。

弟子を教育し、救いの業を完成するためだけなら、イエス様は30歳で地上に登場すればよかったです。貧しさや労働など、人としての苦しみを味わうためなら、10代で誕生してもよかったです。しかし、ルカの福音書2章が描くように、イエス様は子ども時代を過ごされました。

それどころか聖書はイエス様が胎児であったことを明確に示しています。そうです! 「神が人となった」そのスタートは胎児だったのです。神様は人間の中で最も弱い存在となり、人としての生涯を始めてくださいました。胎児から十字架の最後の一息までが、まさに地上における人としてのスタートからゴールまでの全行程であったのです。逆に言えば、人になられたイエス様が胎児であったことは、「胎児は人である」ことを表すはずです。

## 三つの根拠がお役に立てば

「神様の目から見た胎児の人格性」、「神様に応答し得る胎児の人格性」「イエス様が胎児であった事実」。この三つは、胎児が人間であり、人工妊娠中絶に反対すべき聖書的な根拠になるものです。胎児の人権や中絶について尋ねられた時、今回の記事が少しでもお役に立てば感謝です。